

**「ロータリーの職業奉仕」**

こもう数年前になると思うのですが、甲子園ロータリーでアンケート調査がありました。

「あなたの人生で最も印象に残る出来事は？」だったと思います。私は、医師国家試験の合格と書きました。

家内に見せると、大いに不満があったようです。

もちろん、「家内との出会いと結婚」と書いてほしかったのでしょう。私のような小さな人間にも、波乱万丈の人生がありました。

今、思い返すと三つの転機があったようです。一つ目は、医師になれたことです。

自分で言うのも変ですが、私には医師になれるような才能はありませんでした。

奇跡的に医師になれたのです。二つ目の転機は、家内との出会いです。

以前にも言いましたが、私には上昇志向は全くなく、そのままでは恐らくプータロー医師になっていたと思います。その私の首に紐を掛けて引っ張り、尻を蹴っ飛ばして励ましたのが家内です。

私が、今あるのは家内のおかげです。そしてもう一つの転機が、ロータリーとの出会いです。

医師になってからも、私には「自分より先に他者に奉仕する」という概念を持っていませんでした。

甲子園ロータリークラブに入ってすぐに、故 深川パストガバナーの職業奉仕論を聞き、衝撃を受けました。幸いなことに、その後、二回、三回と聞くことができたのです。これで私の人生が大きく変わったと思います。人生の指針ができたのです。

もし、皆様がロータリーを知らない人に、ロータリーについて話す時には、「ロータリーに入れば、あなたの事業や人生が発展繁栄するのですよ」と言ってください。

「商売の仕方をロータリーは教えてくれませんが、どのような人間になればあなたの事業や人生が発展繁栄するのかを教えてください」。

ロータリーは倫理運動であり道徳運動、人間性の向上運動なのです。

ロータリーのいう職業奉仕とは、「奉仕の理念」を身につけて仕事に取り組むことなのです。

それでは、「奉仕の理念」とは何でしょうか。

他人に対する思いやり、優しさであり「利己と利他の調和を求める哲学」です。

「立派なロータリアン」とはロータリーの「知・情・意」を会得した人です。

「四つのテスト」を掲げて経験を積み、そしゃくして自分の言葉でロータリーを語るのが「知」です。

他人の痛みの分かる豊かな感性を持つのが「情」です。

「自分一人だけががいい」のではなく、皆が良くなって、初めて自分が良くなる。自分は後なのだを理解することです。

そして、「奉仕の理念」を理解してロータリー運動を推し進めていこうとする強力な意思を持つことが「意」

です。こうした「知・情・意」を持つ「立派なロータリアン」を一人でも多く輩出するクラブに甲子園ロータリークラブを発展させていきたいと願っています。


**四つのテスト**

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

言行はこれに照らしてから行うべし



『2007年11月8日会員増強委員会インフォーマルミーティング「深川純一パストガバナー講話」於:葉竹』